

# 「特別の教科 道徳」 の目指すものとは…

## 学校教育課通信

平成28年7月14日（木）第127号

編集・発行：県南教育事務所 佐藤 晃

平成27年3月27日に学校教育法施行規則の改正が行われ、「道徳」が「特別の教科 道徳」となりました。道徳の特別教科化にあたってのねらいや要点を、昭和女子大学 押谷由夫先生の講演から紹介します。

### 1 道徳教育と子どもに身につけさせたい構えとは

#### 道徳教育とは何か

道徳教育は、自らをかけがえのない人間として自覚し、よりよい生き方を自分らしく追い求めていけるように援助していくこと。

##### 育てたいのは…

自ら感じ、考え、判断し、  
道徳的实践のできる子ども

- ・道徳的風土の醸成
- ・習慣化、日常化

##### 関わる教師には…

教師自身の生き方が問われる

- ・子どもと教師は平等
- ・教師も子どもとともに成長

### 子どもに身につけさせたい5つの心構え

- |                                 |                 |
|---------------------------------|-----------------|
| (1)「生きていれば、必ずよいことがある」           | —生きることへの絶対的信頼感— |
| (2)「よいことをすれば、必ずよいことがある」         | —善行への絶対的信頼感—    |
| (3)「続けていれば、必ずできるようになる」          | —継続への絶対的信頼感—    |
| (4)「一生懸命にやれば、必ずそれに見合う成果がある」     | —努力への絶対的信頼感—    |
| (5)「具体的目標を持って一生懸命に取り組めば、必ず実現する」 | —具体的目標への絶対的信頼感— |

### 2 「道徳」と「特別の教科 道徳」の違いとは

教科化されても、人格の基盤となる道徳性を形成する基本的な道徳的諸価値について計画的、発展的、総合的に学ぶことや、各教科等における道徳教育の要としての役割を担うことは「道徳」と同じです。

「特別の教科 道徳」は、教科内に特別の教科として位置づけられるので、次のような指導や工夫が取り入れられることが考えられます。

- (1) 各教科で行われているような丁寧な指導、積み重ねる指導  
(予習・復習や確認、ノート指導、系統的指導、教科書の有効活用、評価の充実など)
- (2) 特別の教科という特質を生かす工夫  
(組織的・総合的な指導、各教科との連携の強化、環境の充実整備、家庭や地域との連携など)

### 3 児童の発達段階を考慮した指導方法について

- (1) 低学年  
感じ、考え、実感する授業を。相手の気持ちを推し量り、相手と自分に気持ちよい行動を取ろうとする気持ちを育てる。
- (2) 中学年  
心身の発達や思考力、興味関心が、外へ向いていく時期だからこそ、自分をしっかり見つめられるようにしていく指導の工夫が大切である。
- (3) 高学年  
考えることを中心とした授業を。「どうしてそうなるのか」「どうしてそう考えるのか」といった発問を工夫し、深く考えられるようにする。
- (4) 中学生  
道徳教育の大切さ、社会の一員としての自覚ある生き方について、積極的、主体的に考えられるように工夫し、自分自身との対話を深められるようにする。

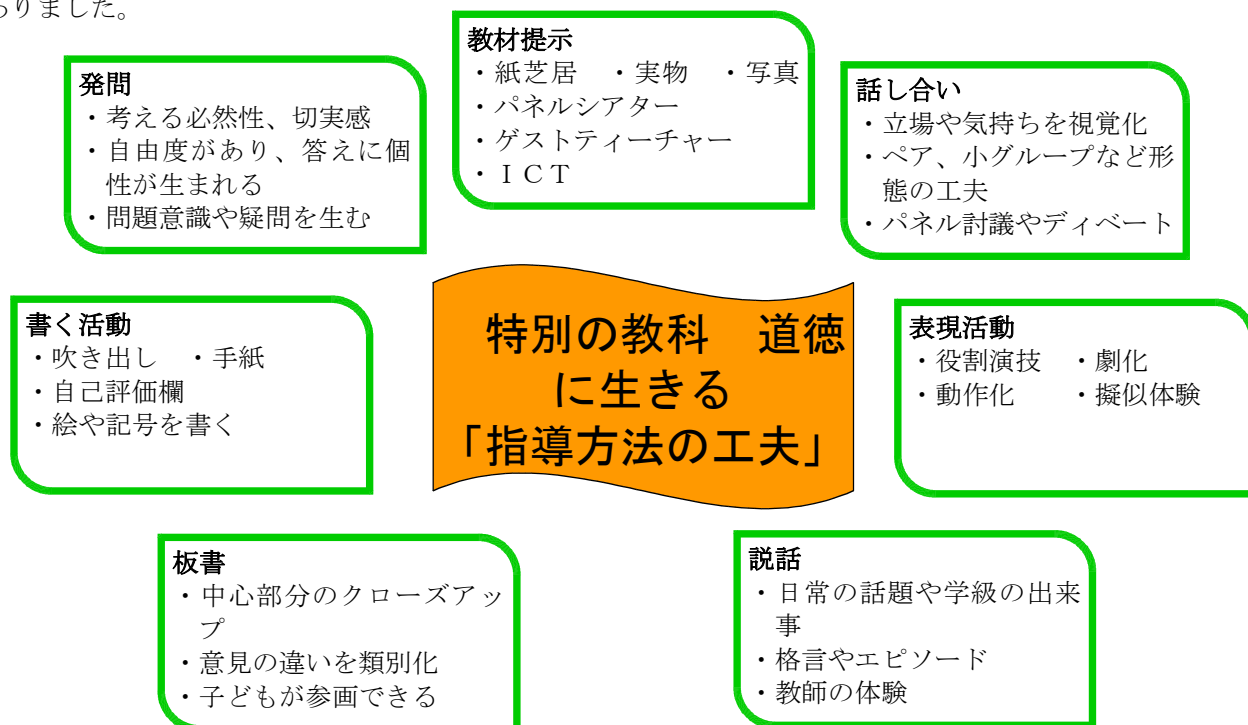
#### 4 指導方法の工夫のための視点について

道徳的価値に照らして自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えさせるためには、次のような視点が大切です。

- ### 心と思考を アクティブに

  - (1) 多様に心が動くようにする
    - ・教材の選択
    - ・問いかけの吟味
    - ・話し合いの充実
    - ・体験活動の充実
  - (2) 心が動くおおもとを押さえる
    - ・心が動いたおおもとの把握
    - ・道徳的価値意識の明確化
    - ・複数の価値を主価値を基に整理
  - (3) 状況に関して道徳的価値に照らして多様に考える
    - ・今話題にしていることと状況の把握
    - ・起こったことの要因の把握
    - ・自分の生活との関連
  - (4) その視点から自己と物事を深く見つめ、課題を見いだせるようにする
    - ・学んだ道徳的価値意識から、自分を認識
    - ・日常生活や様々な学習活動における様々な状況下での行動の選択
    - ・成長している自分を見つめられるようにしつつ課題を発見
    - ・自分たちの置かれている状況や集団、社会を見つめる視野の拡大
    - ・そこから自己の成長や自分たちの成長、集団や社会の成長を実感し、さらなる自己課題の把握
  - (5) 自己課題を意識し、事後につなげていくようにすること
    - ・子どもが自発的に動くようになることが理想
    - ・そのための投げかけも必要
    - ・朝の会や帰りの会での取組
    - ・学級活動や総合的な学習の時間との連携

押谷先生の講演に続いて、福島大学総合教育センター 丹野学先生からは、工夫の具体例についてお話がありました。



「特別の教科 道徳」となっても、今までの道徳で大事にされてきたことがたくさん含まれていることに気付かれたのではないのでしょうか。かけがえのない存在であることを自覚し、よりよく生きることを援助することに変わりはありません。「特別の教科 道徳」への転換を機に、道徳教育の重要性やねらいなどの根底の部分、心をたがやすための指導方法を再確認する機会にしましょう。